



# NAFSA出張報告 OFIAS ブラウンバック・フォーラム

発表者：岡田昭人 (OFIAS)  
2008年7月24日



## NAFSAの概要

正式名称：

Association for International Educators (国際交流協議会)

- 歴史
- 国際交流や留学生教育を担当する人々の連合体
- 学生交換留学推進と教育の質向
- 研究者の相互交流や職員の資質向上
- 米国政府へ要請

## 第60回NAFSA年次総会出張の目的

### OFIAS事業の一環として派遣

- 日程: 2008年5月25日 - 5月31日
- 場所: 米国ワシントンD.C. コンベンションセンター
  
- 出張者
  - 富盛伸夫(学術戦略本部長)
  - 飯塚潤(留学生課職員)
  - 岡田昭人(外国語学部准教授: 兼OFIASコア・スタッフ)

## NAFSA Conferenceの概要

- 5つの主要団体: Knowledge Communities
  - Education Abroad
  - International Education Leadership
  - International Student and Scholar Services
  - Recruitment, Admissions, and Preparation
  - Teaching, Learning, and Scholarship
- Plenary Address (NAFSA執行部、特別ゲスト等)
- Meeting: 分科会(Knowledge Communities等)
- Work shops: 研修会(**S**pecial **I**nterest **G**roups)
- Expo Hall: 各大学、高等教育機関、留学斡旋団体等によるパネル展示
- レセプション: 各種パーティー

## 出張の目的

1. NAFSA総会への出席  
ー参加者数平均で5千人(今回は約9,000人)
2. 世界各国からの参加者間の情報・意見交換、交流  
ーワークショップや各種セッションへの参加および情報収集  
ー日本の関連団体との情報交換  
ー「ボロニャープロセス」やEAIE等の情報等
3. 機会をとらえ協定校候補との交渉、可能性を検討  
ーサマープログラム、ビジネス日本語、平和学  
ー既存の協定校関係者との打ち合わせ(オルバニー)

## 参加状況

### (Workshop)

- The Bologna Process in 2008: Is Europe Reaching its Goals?

### (Session)

- Bridging the Gap between Internationalization and Multicultural Education
- Hot Topics in Education Abroad
- Imagining the Future of International Education: Peace, Justice, and the Development of Global Civil Society
- Articulating Results of Crossing Cultures to Others: Quantifying the Story
- Development of New Higher Education Institutions in China

### (その他)

- キーノートスピーチ(全メキシコ大統領 Vicente Fox)
- レセプション(NAFSA, NY州立大学オルバニー校、JAFSA)

## オルバニー関係者との面会

- ① James M. Pasquill II (Director, Office of Study Abroad and Exchange)
- ② Jean-Paul Sewavi (Study Abroad Advisor)
- ③ Joan N. Savitt (Associate Director, Office of International Education)

- 協定の更新期限について:  
改めて継続の話し合いを持つことで合意。今後の連絡はPasquill氏と連絡を取り合い協定更新の手続きに入るよう指示あり。
- 本学の米国での協定校増加の意向について:  
NY州立大学の他のschoolへの派遣への示唆。本学とNY州立大学オルバニー校との提携により、これまでの内容を踏まえ、他校との交換留学を進めて行くことが可能であるとの見解を得た。

## 今後の課題

- 全学レベルでの留学生政策の検討
  - 特定地域にターゲットを当てた受入れ・派遣学生数の拡大
  - 国内外の大学との協同プログラムの開発
  - 大学院進学を念頭に入れたISEPTUFSカリキュラムの再構築
- 既存のプログラムの充実化と新しいプログラムの開発
  - 「超短期短プロ」: 半年、3ヶ月、1ヶ月単位のプログラム
  - 「日本語サマープログラム」
- 学内組織の連携
  - 国際教育連携チームのリーダーシップ、キャンパス・グローバル室等との連携強化
  - グローバル・コミュニティ事業との協力体制